

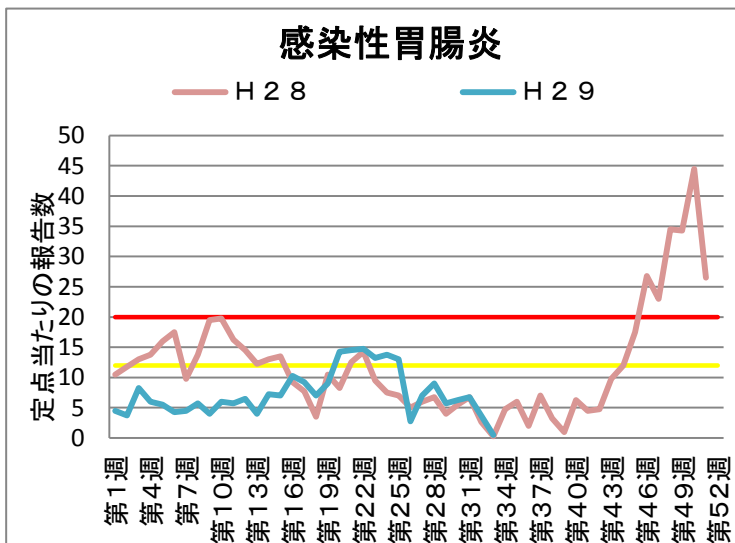
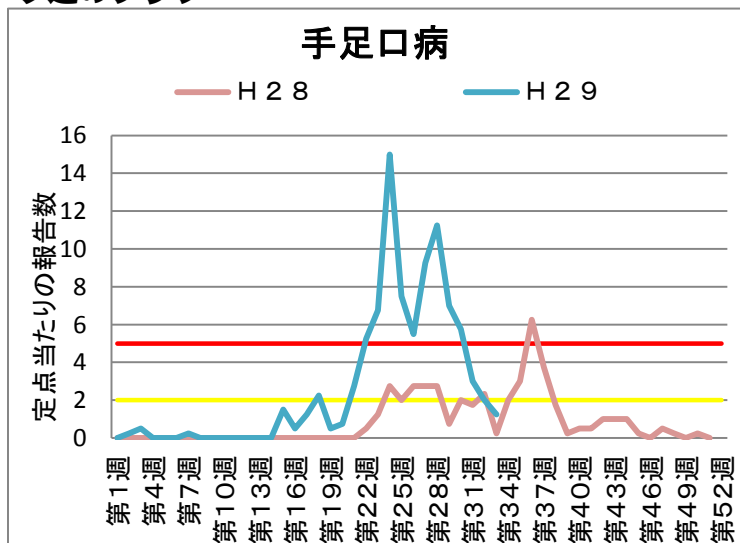
# 乙訓保健所管内の感染症発生動向調査による週報 (小児科定点、インフルエンザ定点)

第 33 週 平成29年8月14日 ~ 平成29年8月20日

## 今週のコメント

○ 乙訓地域での感染症の報告は少なく、落ち着いた状況になっています。  
○ 埼玉県内での腸管出血性大腸菌O157による食中毒が報道されています。腸管出血性大腸菌感染症は夏に増加します。ペロ毒素を産生する腸管出血性大腸菌が付いた食品を食べることによって起こります。主な症状は、腹痛、下痢、血便などで、溶血性尿毒症症候群という合併症により重篤化することもあります。特に、抵抗力が弱い子どもや高齢者は注意が必要です。腸管出血性大腸菌は家畜の腸などに棲息しており肉に付着する菌をゼロにするのは難しいのですが、熱に弱い菌であるため十分に加熱(中心部分の温度が75℃で1分間以上)することにより死滅します。お肉は十分に加熱して食べ、生肉に触れた箸、包丁、まな板などは熱湯をかけておきましょう。また、食事前や調理前の石けんと流水による手洗いも大切です。

## 今週のグラフ



\* 赤線 流行警報基準値です 黄線 警報継続基準値です

## 今週の報告状況

疾病名	定点当たりの報告数	疾病名	定点当たりの報告数
インフルエンザ	-	手足口病	1.25
RSウイルス感染症	-	伝染性紅斑	-
咽頭結膜熱	0.25	突発性発しん	0.25
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	-	百日咳	-
感染性胃腸炎	0.5	ヘルパンギーナ	0.25
水痘	-	流行性耳下腺炎	0.25

定点当たりの報告数 = 1週間の報告件数総数 / 定点数

\* 乙訓管内 インフルエンザ定点数：7箇所、小児科定点数（インフルエンザ以外の疾病）：4箇所

## 参考資料等

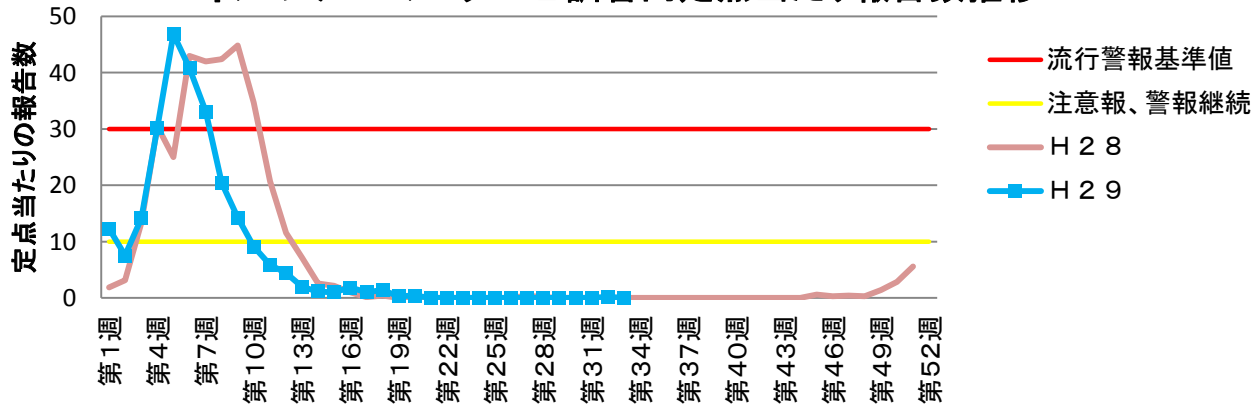
報告週対応表

警報・注意報基準値の説明

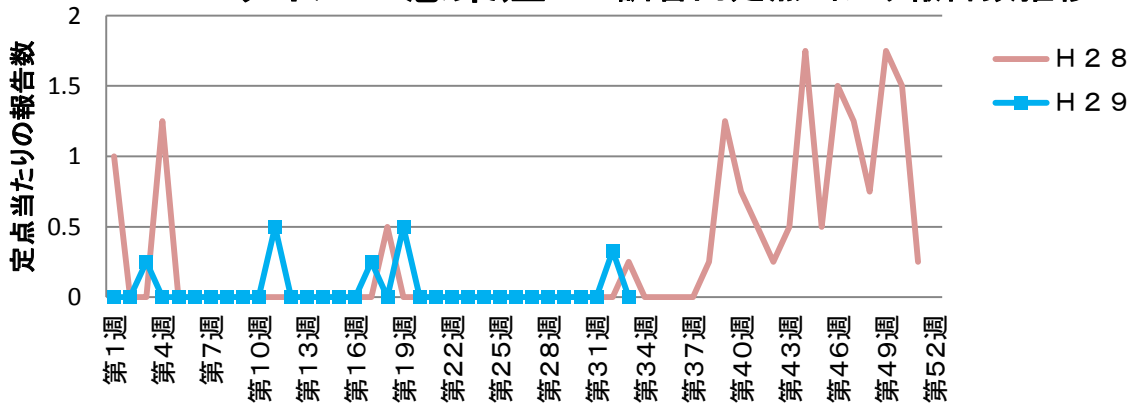
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/calendar.html>

<http://idsc.nih.go.jp/disease/influenza/inf-keiho/guide03.html>

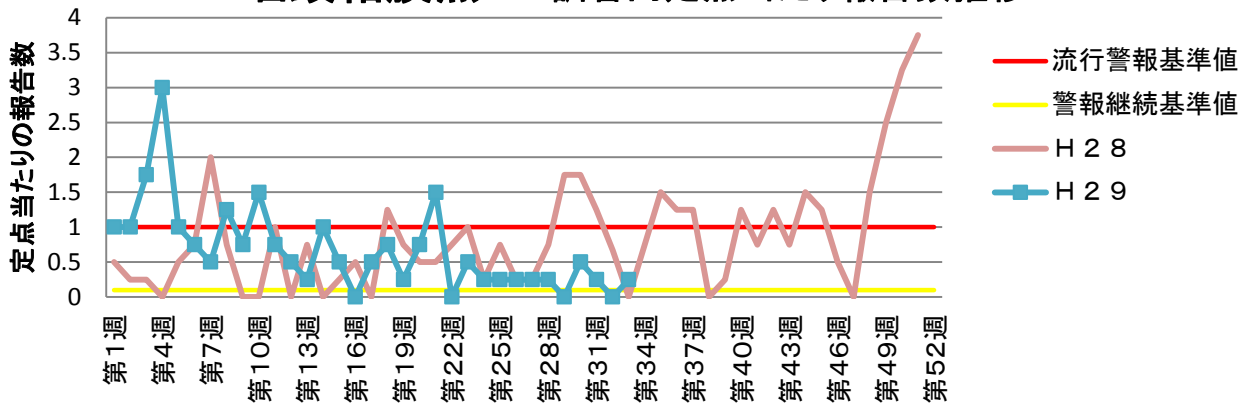
## インフルエンザ 乙訓管内定点当たり報告数推移



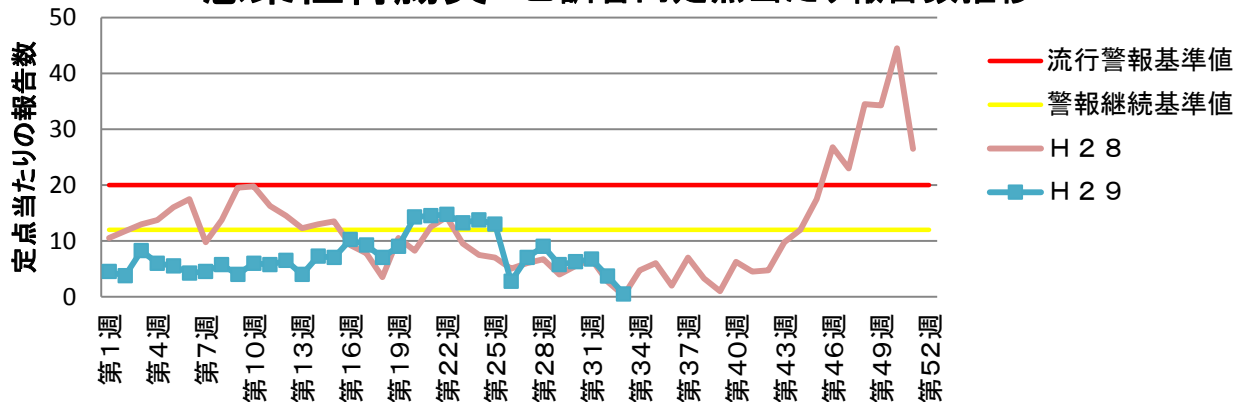
## RSウイルス感染症 乙訓管内定点当たり報告数推移



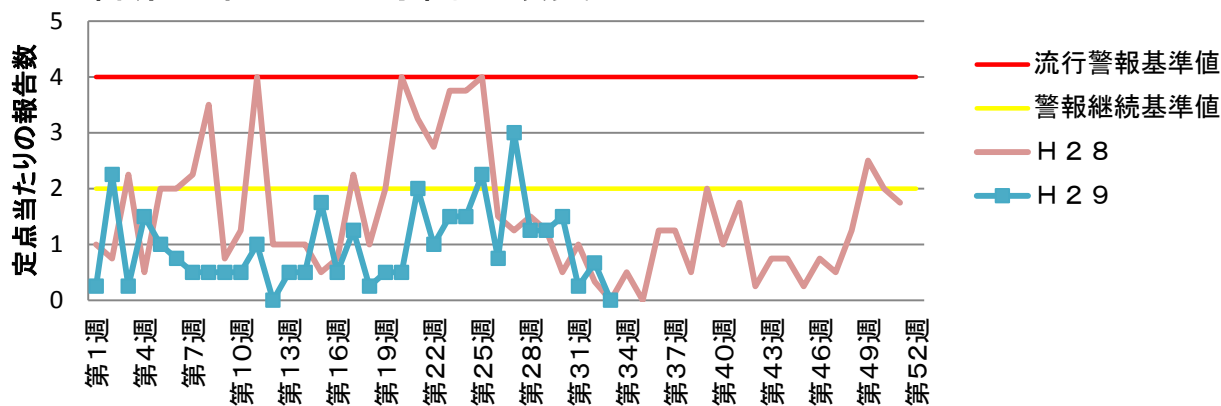
## 咽頭結膜熱 乙訓管内定点当たり報告数推移



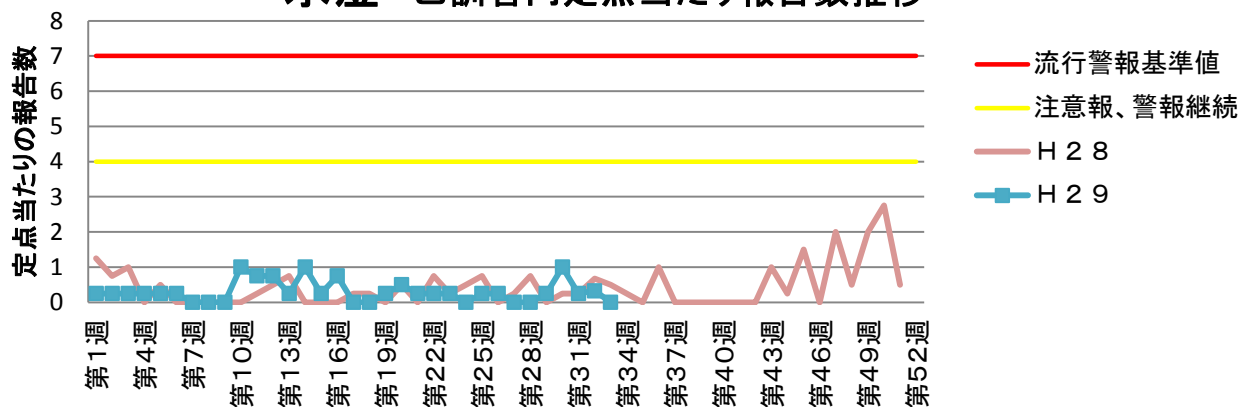
## 感染性胃腸炎 乙訓管内定点当たり報告数推移



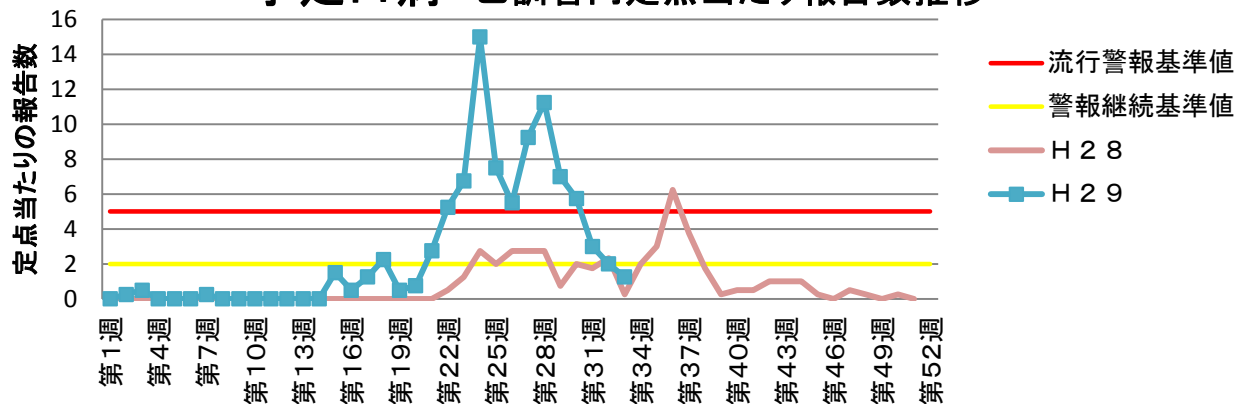
### A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 乙訓管内定点当たり報告数推移



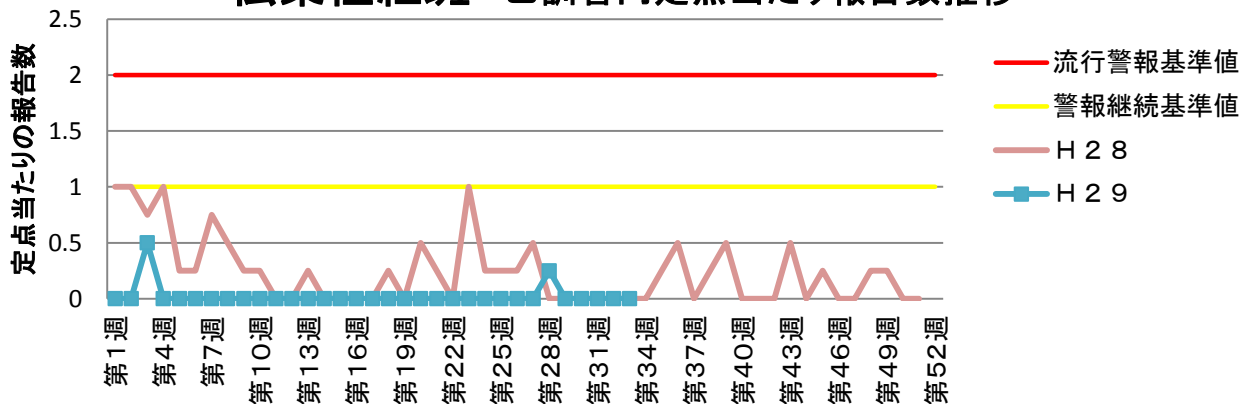
### 水痘 乙訓管内定点当たり報告数推移



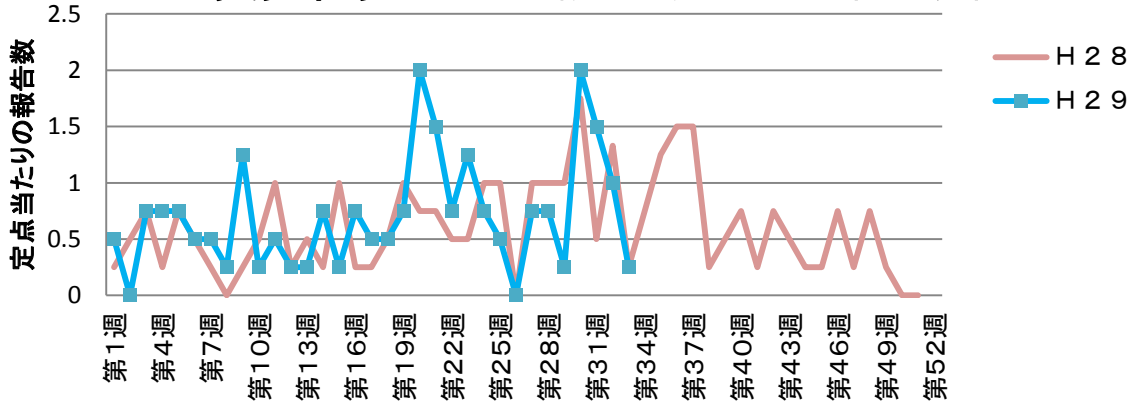
### 手足口病 乙訓管内定点当たり報告数推移



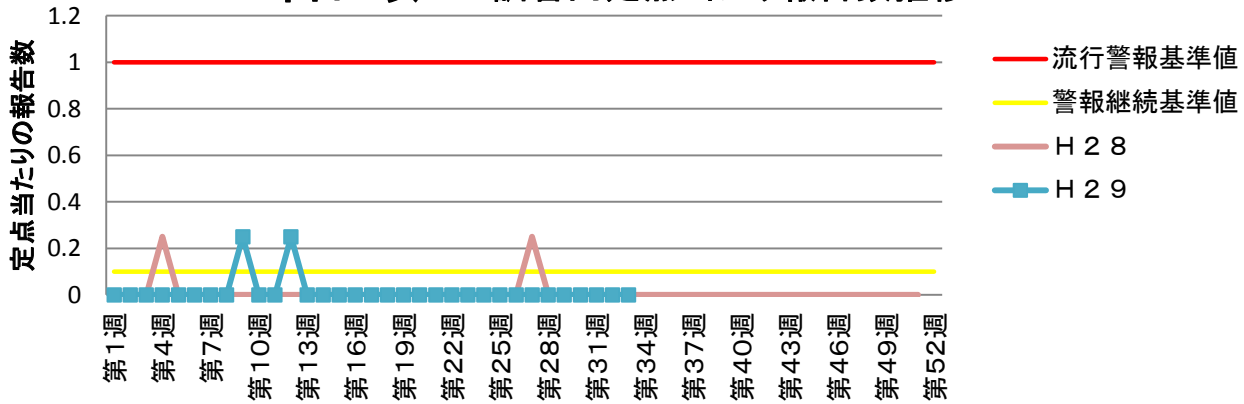
### 伝染性紅斑 乙訓管内定点当たり報告数推移



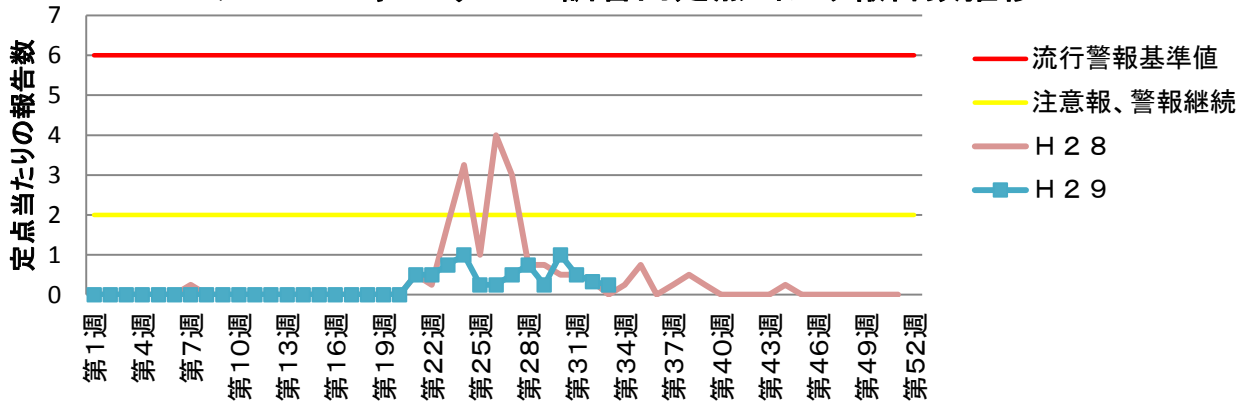
### 突発性発しん 乙訓管内定点当たり報告数推移



### 百日咳 乙訓管内定点当たり報告数推移



### ヘルパンギーナ 乙訓管内定点当たり報告数推移



### 流行性耳下腺炎 乙訓管内定点当たり報告数推移

